

| 特集 |

# 一般病棟における 身体拘束 看護の

近年，急性期病院における身体拘束の中止が話題となっています。しかし，一口に「急性期病院」と言っても，特定機能病院や都市部の大規模病院と，地域の一般病院とではスタッフ数やリソースに開きがあります。

本特集では，桐山啓一郎氏（朝日大学）に企画協力をいただき，一般病棟における身体拘束をしない看護の実現について掘り下げます。

一般病棟に入院中で身体拘束をされていた 552 名の患者の実態調査と考察，そして看護師の工夫によって身体拘束を廃止・減少させた質の高い看護ケア事例を提示します。併せて，本特集テーマを考察する上で重要な「医療行為，身体拘束と高齢者虐待」という論点についても検討します。

# をしない 実現

入院患者 552名の  
実態調査と  
質の高いケア事例から  
考える